

本時のねらい

・CIR（国際交流員）に紹介したい人について、わかりやすく伝わるような英語のスピーチ原稿のマッピング(展開)を作成することができる。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

・Goodnotesを使用することで、書きだした多くの情報（英単語）が伝わりやすいように、構成を練ることができる。
 ・Goodnotesを使用することで、英語のスピーチ原稿のマッピングを保管し、ふりかえりを行いやすいようにする。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

・iPad ・Google Classroom ・Goodnotes ・プロジェクト

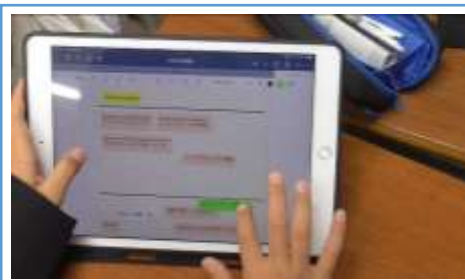
本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (10分)	めあての確認を行う。 めあて：紹介したい人について、わかりやすく伝わるようなスピーチ原稿のマッピング(展開)を作成することができる。 ・本時学習活動の行程(例を通して)を知る。	・生徒と同じように Goodnotes を使用して、プロジェクターに映しながら、学習活動の行程の確認を行う。
展開 (30分)	・個人で紹介したい人物について、できるだけ多くの情報をキーワード（英単語）で書き出す。【写真1】 ・ペアになりお互いに書き出した情報を英語で共有し追加する。 ・書き出した情報が、分かりやすい英文で伝わるように声に出しながら整理し、下書きマッピングを完成させる。 ・下書きマッピングを他ペアに見せ、興味をもってもらうために、改善できることをお互いに英語でアドバイスし合う。【写真2】	・キーワード（英単語）の書き出しをスムーズに行うことができるよう、Goodnotes のテキストボックスを活用する。 ・後から自由にキーワード（英単語）を画面上で付箋のように動かすことができるようにする。 ・下書きマッピングは、スクリーンショットで保存し、後から見直すことができるようにする。 ・後から振り返りを行いやすいように、テキストボックスの背景色を適宜変更しながら、アドバイスを基に情報を追加したり、構成を練ったりする。
まとめ (10分)	・元のペアで、他ペアからもらったアドバイスを英語で共有し、そのアドバイスを参考に再度、マッピングの構成を練る。【写真3】 ・完成したマッピングを Classroom で提出する。 ・めあてに対する工夫を Goodnotes に書き出す。（ふりかえり）	・スクリーンショットで保存した下書きマッピングと比較し、どのように改善し、工夫したのかをふりかえらせる。

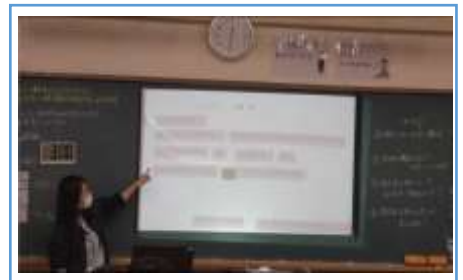
1人1台端末を活用した活動の様子



【写真1】個人でキーワードを書き出している場面



【写真2】自分のマッピングを相手に見せ、アドバイスをもらい、改善に取り組んでいる場面



【写真3】全体で生徒が作成したマッピングを共有している場面

児童生徒の反応や変容

・ふりかえりでは、「意見や考えを班で共有しやすい」、「情報の整理がしやすい」などの意見があった。
 ・考えや意見を表すものと、事実である情報を表すものについて、テキストボックスの色を変えるなどした。これにより、伝えたい内容が生徒にも教師にも理解しやすかった。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

・マッピングは、思考ツールとして、たくさんの情報を活用し、情報(キーワード)を整理するのに、とても便利である。
 ・GoodNotesを使用することで、書き足したり、訂正したりしやすく、協働的な学びにも適応できる。
 ・従来の付箋に書くものであれば、付箋が剥がれたり、なくなったり、保管の仕方も難しい。マッピングは、「書く」「話す」どちらの伝え方にしても、相手に伝えるための根幹になるもので、マッピングさえしっかりできていれば、原稿にしなくても即興で相手に伝えられる。